

# 「vigla」にふさわしい 企業をめざして

—株式会社T-NET vigla (ティーネット ヴィグラ)—

職場  
ルポ

EMPLOYMENT  
REPORT

(文) 清原れい子 (写真) 小山博孝



株式会社T-NET vigla (ティーネット ヴィグラ)

〒761-8081 香川県高松市成合町930-10  
TEL 087-886-8150 FAX 087-886-8102  
URL <http://www.tn-japan.co.jp/vigla/>

「技術者派遣」で社員増。  
特例子会社設立へ

高松市の郊外、高松空港と市中心街のほぼ中間に、「株式会社ティーネットジャパン（TINET JAPAN）」の特例子会社「TINET viglia（ティーネットヴィグラ）」がある。

ティーネットジャパンは一九七六年に四国技術管理センターとして設立され、二〇〇〇年に現社名になった。日本で初めて土木分野の発注者支援事業を始めた会社で、従業員数は約一千名。魚の鯛をイメージしたという外観の本社で、管理本部長兼ティーネットヴィグラ社長の高橋誠さんにかがった。

「道路や橋、河川は国民の安全を守るインフラの部分ですから、きちんとした工事が行われなければなりません。国や地方自治体の技術パートナーとして、公共工事の調査から施工・維持管理までを



高橋誠社長

委託されています。この分野の仕事では日本一だと思っています」

最初は土木分野でスタートしたが、今日では機械・電気・電子・ソフトウェア・プラント・環境など幅広い分野で、開発・設計・プロジェクト管理などの技術者派遣や技術支援を行っている。事業の発展とともに社員は増え、〇五年二月に障害者雇用のためにティーネットヴィグラを設立した。

「設立には、二つの側面がありました。一つは技術者派遣をしていますから、技術者を採用すること〇〇会社の売り上げが上がり、利益が上がりますが、職場が外ですから、支社支店にお願いして障害者の雇用を増やすことがむずかしかったのです。もう一つは、ハローワーク、雇用支援協会からのアドバイスがあり、香川県で初めての特例子会社を設立しました」

〇四年の障害者雇用率は〇・四％。毎月の納付金が多額になりそうだったこと



菊田浩二シニアチーフ

も、設立を後押しした。

「それまで障害者をほとんど雇用したことがありませんでしたので、親会社の管理本部の経理部門を切り出して業務をすれば、下肢の障害なら仕事の能力は変わらないだろうと簡単に考えていました。しかし想定していたよりも、習得に時間がかかったようです」

「ようです」というのは、高橋さんは設立時にはかかわっていませんでした。総務・人事チームのシニアチーフ、菊田浩二さんは立ち上げからかわり、ハローワークの紹介で〇五年四月と六月に聴覚障害者二人と下肢障害者三人を採



ティーネット ヴィグラのオフィス



本社玄関前には昇降機とスロープが設置されている

用した。その後、社員を増やしていったが、就業経験がある人は少なかった。

「私は親会社で人事総務や経理の仕事をしていましたから、業務については心配なかつたのですが、障害のある方と仕事をする経験はありませんでした。どのように教えて、どのように仕事をしていけばいいか、試行錯誤しながらのスタートでした」

最初、聴覚障害の人とのコミュニケーションに戸惑った。

「経理の仕事の細かいところまではなかなか書ききれませんでした。細かいところが伝わらなかったことで、仕事がうまく習得できなかったことがあったと思います」

## 自立をめざして 業務を広げる

○六年六月、高橋さんが社長に就任した。

「私が社長に就任したところに三人が次々と辞めたんです。特例子会社への期待感があつたんでしょうが、実際はヘルプのような仕事だと感じたのでしよう、彼らは主役としてビジネスのステージに立てなかつたのだと思います。それではまずい。何のために会社が存続しているか、今期は何を目標とするか、自分はど

ういう役割を果たしていくか、きちっとした流れの中で仕事をしていこうと考えました」

高橋さんは、改善に取り組んだ。

「それまで親会社の役員として、ヴィグラという会社があることは認識していても、深くは知りませんでした。管理本部長着任後、会社が上場を考える中で、人の出入りも多いヴィグラに経理部門をおくのはリスクが大きいだらうと、本社に戻しました。また社長としては、あまりにも個々の障害を考えすぎて、会社としてめざす方向、キャリアアップを考えたととき、我々の要求のレベルが低いと感じました。下肢の障害があつても、デスクワークには関係ないでしょ。当たり前前の会社にならうということ掲げました」

現在、本社から受託する経理・総務・人事関係のアウトソーシングが売り上げの七八%を占める。

「障害者雇用の幅を広げることと、外の仕事をどう取っていくかをテーマにしました。弊社は人材ビジネスで、自社で商品は作っていませんので、派生する仕事が多とんどありません。一方、会社の強みの一つは、社員数です。土木の現場では社有車や自分の車を使いますから、福利厚生という名目の中で自動車保険や医療保険を売っていきこう。社員数を増やすこと＝売り上げが上がることを逆手に

とって、社員数を増やす手伝いをしよう」と採用支援部門のリクナビへのエントリにメールを打ち返すなどの仕事を取り込みました」

社外にも目を向けた。地域スポーツを活性化させようと活動しているNPO法人エイティエイツバレーボールクラブの応援を始めた。

「エイティエイツの選手を親会社が社員として受け入れるなどの支援を行いました。このエイティエイツの事務所が丸亀町商店街にありましたので、丸亀町の町内会とつながりができて、清掃業務を受けることになりました。外からお金をいただく仕事が始まりました。特例子会社といえども株式会社ですから、利益を出すには自前の仕事をとってこなければなりません」

## リーダー制、月給制で、 障害者を主役に

現在、社員は一六人。そのうち障害者がある人たちは、下肢三人、知的三人、聴覚三人、視覚一人、上肢二人の十二人。

「最初、障害者同士はお互いわかりあっているのかと思っていたのですが、ほかの人の障害はむしろ我々以上にわからず、コミュニケーションが取れなくて、社内がギスギスしていました。そこで、二年前から障害者のリーダー制をとり、



受託部門の人事総務リーダー、泉川和樹さん（24歳）

我々はコーチになりました。直接的な指示はリーダーが出して、自分たちで解決させるようにしたのです。『私は雇われ社長なので、いつかなくなる。社長が変わったら方針が変わるのが嫌なら、社長は『飾り物』と考えて、自分たちでやりなさい』と常に話していますが、多少自覚が出てきましたね」

業務は、経理・総務・人事、保険代理店業務、名刺印刷・広告出版、施設管理の四チームに分け、前者三チームには視覚一人、車いす二人、聴覚一人のリーダーがいる。

「最初は、短時間でも働ける、調子が悪ければ帰れるので、時給制のほうがうまく回るのではないかと考えて、全員時給制でした。でも友人に給料の話をした

とき、時給制では格好がよくないでしょ。辞めた人の理由に時給制がありました。そこでリーダーは月給制にして、リーダー会議を開くようにすると、仕事に対する気持ちが変わってきたと感じています」

設立以来、菊田

さんは一緒に働いてきた。

「あまり大変なことはなかったのですが、どうしたら自立して仕事ができるかが考えたところかもしれませんね。私は下肢障害の人と一緒に仕事をしています。物が運ぶことなどのほかは、ほかの人と同じように指導しています。最初は本社からの通達に沿って仕事をしている形でしたが、今は各社員が業務ごとに事業計画を立てています」

土木の技術者だった中西さんは〇七年一〇月に営業マネージャーとなり、施設管理部門も担当している。

「清掃業務で知的障害者が三人働いています。個人個人の特徴がありますので、コミュニケーションのとおり方や対応の仕方につけています。仕事は細かく教えることができるようになりました。今後は



似顔絵入りのイラスト名刺が評判。デザイナーの林享子さん

清掃業務の質を高めて、継続して受注をいただくことが課題です」

中西さんは営業として、地域とかかわっている。

「地域のふれあい情報誌の『beside（ビサイド）』を毎年発刊しています。三年前の創刊号はアビリンピックの参加者たちに香川のバリアフリーを紹介しました。二号目は小中学校に配布して、総合学習のサブテキストで使っていました。今年は四号の発行を計画しています。ほかに香川県労働政策課の機関紙をHP上に載せたり、東かがわ市の広報紙の広告枠の取り扱いおよびデザインなどの注文をいただいています。香川というローカル性を生かしながら、地元に根ざした企業として存続していきたいと思っています」

## 「期待の社員たち」を 代表して



保険代理店業務を担当する  
視覚障害者の小橋道彦さん

泉川和樹さんは徳島文理大文学部を卒業後、就職。保険チームで仕事をした後、四月から受託部門の人事総務のリーダーとして、ティーネットジャパン管理本部で総務人事の仕事に就いている。三歳のときの交通事故で下半身マヒに。さわやかな雰囲気のある二四歳。東かがわ市在住で、車で一時間かけて通勤している。

「ハローワークの紹介で面接を受け、いろいろなことができそうなので、就職しました。全国の拠点から問い合わせがきますので、多忙ですね。受託の仕事だけではなく、ヴィグラとして独り立ちできる会社になっていければと思います」

ティーネット ヴィグラのオフィスは、

本社からすぐ近くのビル一階の広々としたスペース。林享子さんはデザイナーとして約二年前に入社して、名刺印刷・広告出版の仕事を手がける。

「デザイン関係の仕事に就きたいとハローワークで相談したら、こちらを勧められました。ティーネットジャパンの社員の似顔絵名刺のイラストを描いたり、ウェブの簡単なデザインや自治体の広告のレイアウト、自社のHPの更新などをしていきます。仕事は充実していて、楽しいですね。外に向けて似顔絵名刺、デザイン名刺を売り込んでいきたいです」

「がんばりやさんですよ」と中西さん。谷本浩城さん（三八歳）は、入社して数カ月。病気のため、三年前から車いす生活になった。親会社からの受託業務で、全国各地の固定資産の管理をしている。

「ここは、車いすでも働ける環境が整っています。転職も何回かしましたが、資産管理はまったく新しい仕事です。仕事を任されている感じがしますので、モチベーション高く仕事ができそうです」

保険代理店業務を担当する小橋道彦さんは、〇六年のアピリンピック全国大会ではフラワーアレンジメントで銀賞を獲得した。

「親会社の社長は草花が好きで、入社当初は施設内にたくさんある樹木の管理を任されていました。アピリンピックの種目をみたとき、いちばん業務に近い種

目だと思い、出場しました。現在はファインシヤルプランナーの資格をとり、保険代理店として、損害保険と生命保険を取り扱っています」

施設管理の三人は朝、会社に集合後、中西さんの送迎で、ローテーションで仕事先に向かう。清掃場所は、ゆめタウンと高松中央インターのバスターミナルは毎日、丸亀町商店街の駐車場は月水金だ。その日、メンバーの一人、渡辺卓己さんはゆめタウンのバス停の清掃を終えた後、自転車で中央インターのバス停に。トイレ、フロアの掃除、ゴミ集め、テーブルやいす、窓のサンふき、外の通路と駐車場のゴミ拾いなどを手際よく進めていた。

「以前は電気関係の下請けの仕事で、電柱の上で光ケーブルや電話ケーブルを



固定資産の管理業務を担当する谷本浩城さん

## WORKSHOP REPORT



高速バスターミナルの清掃に汗を流す渡辺卓己さん



営業マネージャーの中西章さん（写真右）。  
渡辺さんたちの送迎も担当している

### 周囲に誇れる グッドカンパニーに

張っていましたが、リストラになり、ハローワーク、障害者職業センターに行き、こちらに就職しました。前は深夜の作業がありました。いま仕事は楽ですし、時間の余裕もあります」

ティーネット ヴィグラで働くのは、香川県の障害者にとっては一つのステータス。応募者は多く、高橋さんも採用に立ち会う。

は落としています。障害者の雇用はどうか。いいところを見て採用してしまいます。自分の中に過剰に期待感を植えつけてしまつて、失敗したケースは最近もありましたね。清掃とパソコン入力で職場実習を受け入れています。養護学校の先生には最低限、明るく大きな声で挨拶できるようにしてくださいとお話しています」

ヴィグラはエスペラント語で、「活発な、生き生きした仲間たち」という意味だ。

「障害の有無にかかわらず、短所を補い、長所を生かして仕事に取り組んでい

きたいですね。本社とヴィグラは駐車場を80メートルぐらい歩くのですが、私はその間にメトロノームのテンポを切り替えています。本体の事業のスピード感と比べると、仕事のペースはまだ遅いと思います。今までは障害者雇用を増やそうとばかり考えていましたが、特例子会社の設置基準内でもっと健全者も入れていきたいと思っています」

本社勤務の人と合わせて、障害者雇用率は一・八二%になった。

「短期的には自分たちの力で、自分たちが掲げた事業年度の目標をクリアしてほしいですね。そのための考え方、工夫の仕方がまだまだ狭いので、そこは我々が支援したいと思います。毎期ごとに関心を出しながら、待遇をよくしていくことが短期的には最大の目標です」

高橋さんは、「壁を打ち破れ」とメッセージを放つ。

「長期的には、グッドカンパニーをめざしています。障害を感じさせない専門性を持ち、仲間と目的意識を共有でき、家族や友人に誇れる会社です。無理だとあきらめてしまうのではなく、さまざまな壁を打ち破り、社員たちが『成長・貢献・納得』感を感じられる組織にする。ともに、しっかりと利益を出せる会社となるよう努力したいと思っています」

「仲間たち」の、これからの期待したい。